第54回日本医療・病院管理学会学術総会（東京）9/17-18,2016

1-D 7-3 外国人患者へのケア提供に際して看護師が持つ困難さ ーテキストマイニング分析からー

野地有子[1)]，野崎章子[1)]，望月由紀[1)]，柳堀朗子[2)]，菅田勝也[3)]
1）千葉大学　2）ちば県民保健予防財団　3）藍野大学

【目的】 日本での病院および看護の国際化対応は遅れていることが指摘されており，看護職のカルチュラル・コンピテンスの実態について評価することは急務である．そこで，本報告では，臨床実践における文化的安全の視点から，看護師が外国人患者を受け持った時に困ったことについて検討した．

【方法】 日本語版カルチュラル・コンピテンス測定ツールの開発と実態調査の中に含まれた自由記載欄，「外国人患者を受け持ったときに困ったこと」について分析した．実態調査は，全国を対象とした病院の国際化に関する先行調査に参加した病院の中から，参加希望のあった19病院の全看護職員を対象とした．無記名の自記式アンケート（約20分）で，看護部に配布回収を依頼し，2週間の留め置き後に個別のシールで封をした封筒にて回収した．実施期間は，平成27年9月～12月であった．研究者の所属大学における倫理審査委員会の承認を得て実施した．分析にはSPSS Text Analytics for Surveys（TAFS)14.0 を用いた．

【結果および考察】

１）回収率および属性

参加19病院での調査票配布数は9,140件，回収数は7,592件(回収率83%)であった．有効回答数は7,494件(有効回答率82%)であった．回答者の属性は，女性6,844名(91.3%)，男性633名(8.4%)であった．平均年齢は32.6±9.4歳であった．外国人患者を受け持ったことの有る者は，5430名(72.5%)であった．外国人患者を受け持ったときに困ったことの記載件数は，4,738件（51.8%）であった．

２）トップ50位のコンセプトと出現頻度（図１）

出現頻度トップ50のコンセプトは多い順に，コミュニケーション(2,736),言語(2669),言葉が通じない(1842),英語(639),日本語(577),患者(529),違い(465),説明(438),理解(353),文化(334),ジェスチャー,医療看護専門用語,通訳であった．続いて，症状,患者の訴え等,看護ケアに関連する内容がみられた．

３）カテゴリー間の関連図（図２）

カテゴリー化により，12カテゴリーと47サブカテゴリーが抽出された．カテゴリー間の関連図より，診療,ケア,日常生活,苦情トラブル,看護師の体験,看護管理のコアカテゴリーが示唆された．加えて,時間軸クリティカル場面などの状況設定により，対応策の検討が有効と考えられた．

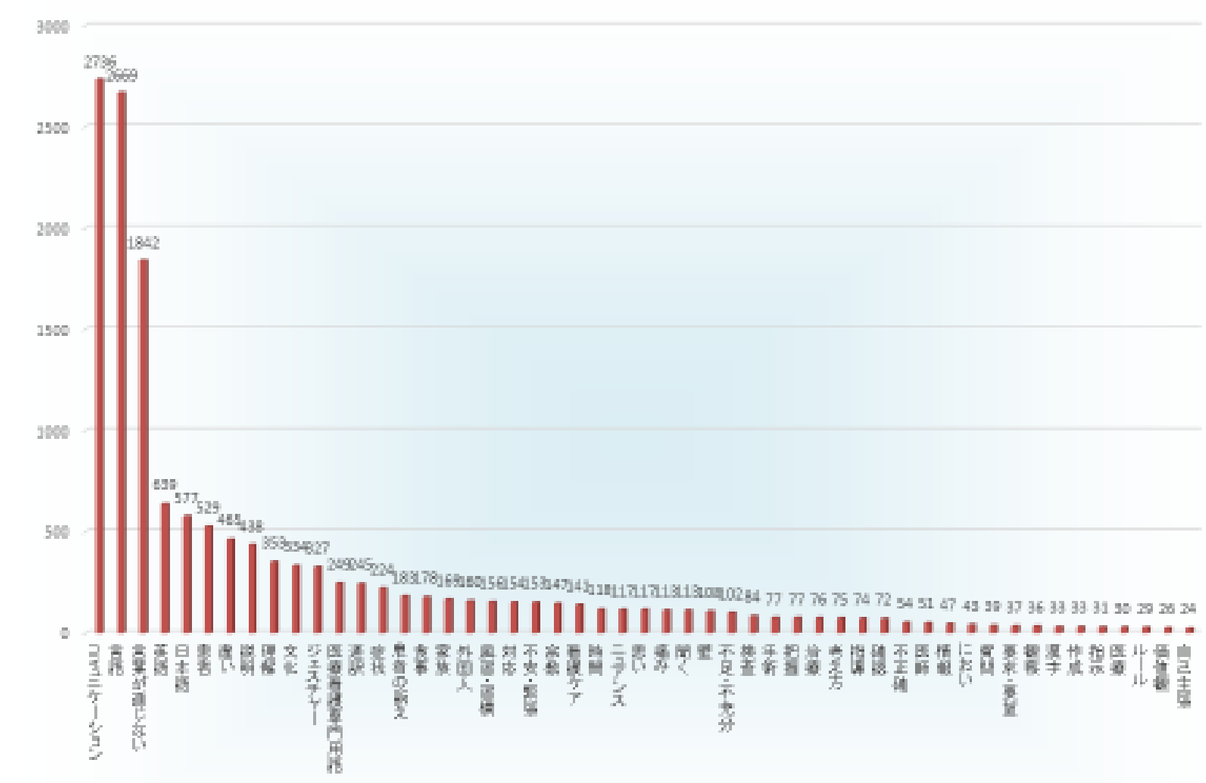

図１　外国人患者への看護ケアにおける困難top50（複数回答）

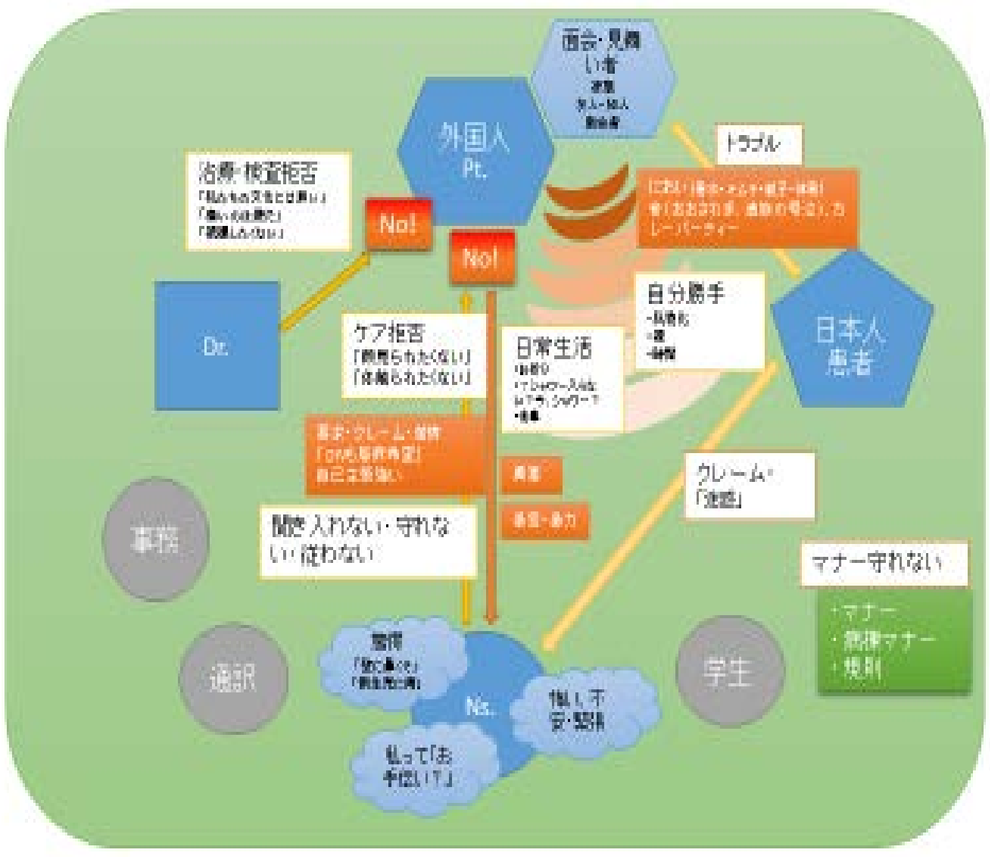

図２　看護師が困ったことのカテゴリー間の関連図

【結論】 外国人患者への看護ケアにおける困難はTAFS分析の結果，言語的コミュニケーションの壁に関連することがトップ13に多くみられ，次いで文化の違いによる看護ケアの困難な状況と，看護師の不安や緊張がみられた．国籍にかかわらず，説明と同意のもと治療が受けられる医療提システムおよび臨床実践における文化的安全の構築のための対策が必要と考える．

（本研究は文部科学省科学研究費助成事業平成25～27年度基盤研究(A)25253107の研究費助成を得て実施した）